

『聆涛閣集古帖』瓦帖と藤貞幹の『古瓦譜』

村野正景

その編集過程に関する基礎的研究

Old Roof Tiles Rubbings of 'Reitokaku-Shukocho' and Tou Teikan's 'Kogafu': A Foundational Study on Their Compilation Processes
MURANO Masakage

はじめに

- ① 問題の所在
- ② 「瓦」の帖の分類
- ③ 藤貞幹『古瓦譜』諸本との比較
- ④ 「瓦」の帖の編集
おわりに

【論文要旨】

本稿では、「『聆涛閣集古帖』の総合資料学的研究」の一環として、「『聆涛閣集古帖』のうち瓦帖に焦点を当て、その編纂過程を明らかにするための基礎的研究をおこなった。結果として、本帖編纂の最も重要な作業である瓦拓本の貼り込み方に異同があること、それが拓本の入手経路や拓本制作者の違いを示す可能性があること、藤貞幹が拓本制作者の一人であること、また藤貞幹作の『古瓦譜』と類似性を持ち、とりわけ

最初期の『古瓦譜』として知られる大阪府立中之島図書館本に近いこと等が明らかになった。また本帖の編纂作業を検討する価値は、前近代において古瓦というモノを歴史資料化する過程の解明、ひいては考古学の営みの発生を知ることにつながる点にあると考えた。

【キーワード】 瓦、拓本、藤貞幹、古瓦譜、モノの歴史資料化、大阪府立中之島図書館本